#158

シュンラン

Cymbidium goeringii

シュンラン（愛知県東三河　09.4/23）

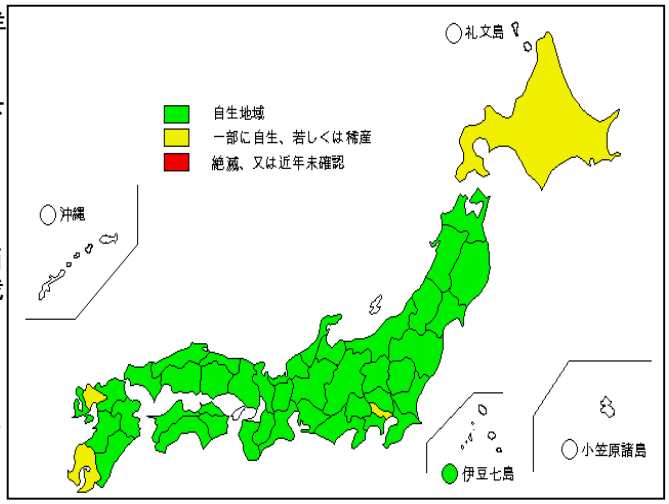
沖縄を除く全国に自生する大型で常緑の地生蘭です。東洋蘭といえばカンランか本種を指すほど有名で、春を代表する蘭です。

明るい雑木林から乾燥した松林、やや薄暗い針葉樹林下などと環境適応能力は広く、低山帯で最も良く目にする野生蘭です。

花は3月～4月頃に10cm程度の白い花茎を伸ばし、大きいもので5cm程度の大輪の花を1輪咲かせます。Cymbidium属らしい肉厚で見ごたえのある花は大変観賞価値が高く長持ちするため、古くから古典植物として好んで栽培されています。

剣のようにシャープで硬質な葉を持つ草姿も観賞価値が高く、胴長の蘭鉢に植え、チャボ葉や斑入り、変り葉などの変異種が特に寵愛されています。

実生発芽の場合にまず地下にショウガ根と呼ばれる蘭菌を蓄えた根茎を形成するのも本種の特徴です。（カンランも同様）



沖縄を除く全国に自生します

シュンラン(愛知県東三河10.4/11)

強健で観賞価値も高いことから、鉢栽培だけでなく一般家庭の日陰や日本庭園などでは好んで地植えにされています。

登山道や明るい雑木林を好むため人目に付きやすく、花も大きく常緑で冬でも目立つ為盗掘の被害に遭いやすい蘭ですが、自生量が多いことと、花の変異個体が少ないことなどからカンランに比べると採集圧は格段に低く野山で出会える確立は高いです。

但し深山より里山を好む植物なので、宅地開発や道路、鉄道などの公共工事の犠牲になりやすく自生量は年々減っています。強健とはいえ成長の早い蘭ではないため、一度失われた自生地を回復するには気の遠くなるような時間とお金が必要となるため、何とか現状の自生地の保全が必要です。

Document and photo by LittleFlower 2010

大変人気のある蘭で早春には園芸店やホームセンターでも店頭にならぶため入手は容易です。ただし洋蘭のシンピジュウム交配種などに比べると数が売れる蘭ではないため、商用生産には消極的で未だに盗掘株が堂々と売られていることも多いです。

栽培は容易で日向土や軽石など水捌けのよい用土で木陰で管理すれば元気に育ちます。また樹木の下草として地植えにしても良いです。

増殖はあまり期待できません。1年に1つバルブを形成し、古いバルブも10年ほどは持つ為バルブ吹かしが一般的です。(自然増殖はあまり期待できません)

実生による増殖は種子の熟成も遅く成長も遅い為あまり行われておりません。(不可能ではないですがあまりメリットがないためと思われます)

シュンラン(愛知県東三河10.4/11)

シュンラン(愛知県東三河09.3/15)

近縁種にはやや南方系のカンランやホウサイラン、コラン、ナギラン、アキザキナギラン、半着生種で大木の又や太い枝の苔に根を下ろすヘツカラン、葉の無い腐生蘭のマヤランやサガミランモドキなどがあります。

また、地域変種としてはやや芳香のあるツシマニオイシュンランや葉がやや細いホソバシュンラン(別種とするには異論がありますが。。)などがあります。

またシュンランとカンランの間には偶然花期が重なって生まれたと思われる自然交雑種も確認されており、ハルカンランと呼ばれています。ハルカンランはシュンランの性質が強く出る固体とカンランよりの固体など様々です。(花数や花弁の丸さ、花期など)

Document and photo by LittleFlower 2010